



『看護婦』という仕事

平成10年9月28日～10月23日

医療従事者の中で最も多いのが看護婦です。看護とは人間を対象に“生きる”という意義を見つめる、責任もやりがいもある専門職であるはずですが、しかし、看護婦(士)は、非常に社会の変動に影響を受けやすく、その労働の特殊性、専門性、尊厳性に値する正当な評価や処遇が保障されてはいないのが現実です。

今回の展示では、明治に始まる近代看護の歴史をふりかえるとともに、看護婦(士)の置かれている状況や問題点を見つめ直し、看護婦について考えてみたいと思います。

展示資料一覧

<>内は当館請求記号

看護婦の歴史

1884年(明治17年)、有志共立東京病院で米人リード女史を招き、看護法講義を開始しました(日本の看護教育のはじまり)。戦前の風土では、看護婦が肯定的に扱われることは少なく、女性が金品をもらって病人の下の世話をするのは卑しいことだと思なされるが多かったようです。

1. 看護婦勤務

吉田貞軒編 大阪 井上一書堂 明38.6 114p 19cm <YDM58538>

◇看護という職業が婦人の職業としてもっとも適切であり、婦人を要せねばならない。なぜなら婦人には、細かい注意力、従順、母たる資格があるからである。

2. 婦人界 第2巻第4号

1918 東京社 <雑51-30>

◇明治19年頃の看護婦に対する世間のイメージ(「世間からは焼場の番人くらいにしか思われなくて、それはそれは賤しいものでした。’)等が記述されている。

3. 看護婦養成の実際

西尾幾治著 東京 南江堂 昭14 224p 23cm <60-1554>

◇看護婦生徒は入学後5、6年で結婚退職をするので、常時確保することに苦勞していたようだ。

4. 医学史研究 第53号

1980 医学史研究会 <Z19-97>

◇大正時代の職業婦人としての看護婦を当時のマスコミはどのように報道しているか。

5. 近代日本看護史

亀山美知子著 東京 ドメス出版 1985 286p 22cm <EG234-307>

◇明治、大正時代、「お金のことを口に出すのは、はしたない」という風潮が看護婦の中に強かったようである。

6. 教育と医学 第41巻第3号

1993 慶應通信 <EG234-307>

◇職業としての看護婦の誕生

〔制服の変遷〕

7. 看護教育 第6巻10号

1965年 医学書院 <Z19-125>

◇明治26年当時の制服の写真(日本最初の看護婦生徒の服装)

8. 写真で見る日本近代看護の歴史 先駆者を訪ねて

高橋政子著 東京 医学書院 1984.5 154p 26cm <EG234-338>

◇大正時代から帽子はまげの上にかぶせるものにかわった。

労働問題

大正4年6月、「内務省令看護規則」が制定され全国統一の資格が導入されました。しかし、第二次大戦による極端な看護婦不足により資格年齢が引き下げられ、教育期間も短縮されました。残念なことに戦前、戦後を通してその成り立ちや医師中心の医療制度のために、地位が低い仕事のように思われているところがあります。

人手不足、3K・9Kといわれる環境の中で、様々な問題点を抱えながらも看護婦(士)として誇りをもって働く人々が、よりよい社会環境、労働条件のもとで活躍できることを願わずにはられません。

9. 看護婦現代史

富岡次郎著 東京 医学書院 1966 228p 18cm <498.184-To486k>

◇昭和35年に医療労働運動史上初めての病院統一ストライキが起きた。

10. 医学史研究 第44号

1975 医学史研究会 <Z19-97>

◇戦前の看護婦ストライキ

11. 婦人労働とILO看護婦条約

竹中恵美子〔ほか〕編著

東京 労働教育センター 1978 262p 19cm <EG234-178>

◇1977年6月ILO63回総会で、『看護職員の雇用、労働条件及び生活状態に関する条約・勧告』が採択され、日本看護協会は条約批准、国内法整備に向け、運動を開始した。

〔なぜ起こる人手不足〕

12. 日本の看護婦

南条薫著 東京 三一書房 1970 236p 18cm <EG234-21>

◇看護婦不足の原因—若年労働力の不足、病院や有床診療所の急増と疾病構造の変化、看護婦養成所の狭き門、労働条件が厳しい(夜勤)、待遇が悪い、病院組織の前近代性。

13. 看護婦白書

日本医療労働組合協議会編 東京 労働旬報社 1969 264p 19cm <EG234-2>

◇国の政策(低い診療報酬が医療労働者に対する低賃金、労働強化を押しつけている)

14. 保健婦・助産婦・看護婦会員実態調査 昭和48年

東京 日本看護協会出版会 1974 184p 26cm <EG234-91>

◇職場の労働条件の良否が、ナースの離職か否かを決定付ける要因である。

15. 看護婦が足りない

行天良雄〔著〕 東京 岩波書店 1990 62p 21cm <EG234-E173>

◇若年労働力の不足が予想され、今後ますます人手不足になるのでは。

16. 看護婦をふやして!

江尻尚子〔ほか〕著 東京 新日本出版社 1991 216p 19cm <EG234-E185>

◇看護婦がやめていく… 看護婦の勤続年数は全国平均で7、8年、大都市の病院では3年とい

う短さであり、離職率が高い。

〔人手不足等から生じる諸問題〕

17. 看護婦残酷物語

過重労働、人手不足、家庭崩壊、離職者続出の蟻地獄

松倉哲也著 東京 エール出版社 1984 190p 19cm <EG234-362>

◇勤務間隔が実質4、5時間で疲労回復がなされないまま、ハードな勤務につかなければならない。患者より顔色が悪い看護婦もいるようだ。

18. 労働科学 第61号第4号

1985 労働科学研究所 <Z6-200>

◇夜勤の問題点(アンケートより)

19. 労働運動 253号

1986 新日本出版社 <Z6-2>

◇看護婦の疲労感について 交替制勤務のため不規則な生活となり、肉体を破壊し、家庭生活や社会生活の維持を困難にしている。

20. 看護婦不足 白衣の天使は疲れている ドキュメント

立木啓子著 東京 朝日ソノラマ 1991 214p 19cm <EG234-E235>

◇元看護婦の声―「復職してもブランクを埋めることができるか自信がない。」

21. 週刊金曜日 第5巻第47号

1997 金曜日 <Z24-B45>

◇1996年から看護婦の2交代制が導入された。この2交代制は、実働16時間に及ぶ長時間労働でありながら、仮眠時間の保証はない。3交代制でも様々な健康障害がいわれているなか、2交代制になったら、その問題が極端な形で現れるともいわれている。

〔准看護婦制度問題〕

1951年4月に看護婦甲種、乙種が廃止され、新たに准看護婦制度新設された。准看護婦は短期間で養成され、医療現場では看護婦と同じ仕事をしながら、賃金格差、待遇差別があるといわれている。

22. 白衣の天使と呼ばないで 看護婦は医師の小間使いではない

小原守夫著 東京 エール出版社 1977 186p 19cm <EG234-125>

◇「私は、ほんとうは、看護婦のすべてに「白衣の天使」「聖職」という冠称を贈りたい。(中略)

だが、消耗品扱いされ、小間使い視されている現実をみると、簡単に頭上に冠を掲げるわけにはいかない。」(本書あとがきより)

23. 准看護婦の“准”ってなあに 拜啓厚生大臣殿

中島幸江著 東京 桐書房 1990.6 203p 19cm <EG234-E205>

◇看護婦の半数を占める准看護婦の一人である作者の現状と生活についてのレポート。

24. 2001年に准看護婦養成停止の実現を『准看護婦問題調査検討会報告書』完全収録

日本看護協会編 東京 日本看護協会出版会 1997.2 163p 26cm

<EG234-G169>

◇「まず教育を止めること、量産される元を止めないで准看護婦制度廃止はありえない。」
制度廃止の第一歩は、養成停止からである。

〔看護婦確保のために…〕

25. 看護婦確保・定着のポイント 50

北風茂著 東京 日本医療企画 1992 111p 17cm <EG231-E483>

26. 詳説看護婦等人材確保法

斎藤邦彦編著 東京 日刊労働通信社 1992 218p 21cm <AZ-581-E167>

◇第123回国会において「看護婦等の人材確保の促進に関する法律」が成立した。

〔改善にむけて〕

27. 看護労働の未来 国民のための看護体制確立への提言

国民医療・医療労働研究会編 <EG234-356>

東京 労働旬報社 1985 226p 19cm

◇看護労働者の改善点について国、自治体のみならず、病院その他の医療機関に具体的な提言をするとともに、ひろく社会に訴え、関心を喚起するために公表された。

28. 医学のあゆみ 第147巻第8号

1988 医歯薬出版株式会社 <Z19-96>

◇看護婦の慢性的不足の解消法……不足への認識、養成数の増加、定着率を高める、魅力ある職業にする。

◎請求記号が YDM ではじまる資料は、マイクロ資料でのご利用になりますので、展示期間中でもご利用になれます。

国立国会図書館 03-3581-2331(代)
ホームページアドレス <http://www.ndl.go.jp>

■国立国会図書館■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□■03(3581)2331■